

# 企業の社会的責任

富士電機グループの経営理念の根底にあるのは、「社会の一員である企業は、人と環境にやさしい存在でなければならない」という考え方です。この理念の実践こそが富士電機グループのCSR（企業の社会的責任）の基本であると捉え、社会から尊敬される企業グループを目指しています。

## ● CSRの基本的な考え方

社会の公器である企業が存続・発展していくためには、工場・事業所の環境負荷低減（グリーンファクトリー、グリーンオフィス）や環境負荷の少ない製品（グリーンプロダクト）づくりなどを推進する「環境へのやさしさ」に加え、「人や社会に対してもやさしい」事業活動を通じて、顧客をはじめとするステークホルダーとの信頼関係を強化することが不可欠です。

そのためには、コンプライアンス（法令遵守）をはじめ、メーカーの使命である製品の「品質」「安全性」の維持向上や独創的な技術開発、心を込めたサービスの提供などによって、社会の期待に応え続けなければなりません。

当社グループは、このような企業の社会的責任に関する意識を全社に浸透させ、社会の信頼と期待に応える事業を推進していくために、現在、「多様な社員が安心して働ける職場づくり」「環境保全活動の強化」「社会貢献活動の拡充」「コンプライアンスの徹底」の4つの活動に重点的に取り組んでいます。

これらを通じてCSR活動の徹底を図り、適正な事業活動を通じて得た利益・成果をそれぞれのステークホルダーと公正に分ちあってこそ、私たちは真に存在価値のある企業グループとして社会から評価されるものと考えています。

## ● 環境ビジョン2020

当社グループでは、従業員一人ひとりが環境保全に向けた具体的な行動に着手できるように、活動の道標を定めた「環境ビジョン」を策定しました。このビジョンは、

## 富士電機グループ経営理念

### 基本理念

富士電機グループは、地球社会の良き企業市民として、地域、顧客、パートナーとの信頼関係を深め、誠実にその使命を果たします

- ・豊かさへの貢献
- ・創造への挑戦
- ・自然との調和

### 経営方針

1. 独創的な技術と心のこもったサービスで、顧客の期待に応え、最大の満足を提供します
2. 企業の拡大発展を図り、適正な利益を確保し、その成果を株主、社員ならびに社会と分かちあいます
3. 社員一人ひとりを尊重し、個性を最大限に伸ばします

### 行動指針

熱く、高く、そして優しく

“富士電機グループは豊かでゆとりある社会を実現するため「エネルギー・環境」で環境貢献企業No.1を目指す”という将来目標を定めたものです。

## 環境保全に向けた取り組み内容と目標

### 地球温暖化防止

- ・生産時のCO<sub>2</sub>排出量を20%削減（2006年度基準）
- ・製品のエネルギー効率を向上させ、省エネ・創エネ製品で社会のCO<sub>2</sub>排出量を240万トン削減（2006年度基準）

### 循環型社会形成

- ・製品の3R（リユース、リデュース、リサイクル）を推進し、環境配慮型製品を拡大
- ・廃棄物、エネルギー、化学物質などの削減により事業所のゼロエミッションを達成

### 企業の社会的責任

- ・環境国民運動、自然環境保護運動、環境教育を通して環境意識を向上

## ● CSRの主な実績と目標

	2008年度の実績	2009年度の目標
<b>ステークホルダーとの信頼関係強化</b>		
お客様とともに	各事業所でQC(品質管理)診断を15カ所で行い、第三者視点で診断、評価し、品質向上活動を強化	グループ全体の品質意識の向上
	製品安全のグループ方針の制定とルールを制定し、社外ホームページへの公開と事業所展開を実施	製品安全に関する教育と活動のモニタリング実施
サプライヤーとともに	半導体REACH*1プロジェクトによるサプライヤー調査実施、半導体部材調査回収率100%達成	CSR調達の推進
従業員とともに	障がい者雇用の推進(法定雇用率1.8%に対し、2.04%達成)	障がい者雇用のさらなる推進
	女性向けキャリアデザイン研修、女性管理職育成マネジメント研修などの実施	女性のキャリア形成支援(職域拡大、積極登用など)
	メンタルヘルスのラインケア・セルフケア教育を充実(各20回以上実施)	海外拠点を含む、リスク回避対策と安全衛生管理体制の強化
<b>社会貢献活動の取り組み</b>		
環境保全への貢献活動	熊本県和水町「なごみの里」で里山再生活動を実施(10回)	「なごみの里」での里山再生活動の継続、他地域への展開
地域社会への貢献活動	介護福祉事業を通じた地域貢献(国内)、休日を利用したボランティア活動(マレーシア)など	国内外での青少年育成支援、地域ニーズに即した貢献活動の継続・拡充
<b>環境経営</b>		
環境経営の推進	「環境ビジョン2020」を策定	「環境ビジョン2020」の推進・展開
製品・技術・サービスの環境負荷の低減	REACH対応ワーキンググループ活動実施、REACHデータベース構築開始	新環境規制(EuP指令*2、REACH規則)対応体制確立
事業活動での環境負荷の低減	1997年度比21.8%減の生産高CO <sub>2</sub> 原単位削減達成(2008年度目標:17.3%減)	製造事業所の省エネルギーの推進(生産高CO <sub>2</sub> 原単位で、1997年度実績基準で毎年1%以上削減)
	CO <sub>2</sub> 排出量2006年度比7.2%減達成	国内エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量を2010年度に6%減(2006年度比)
	10事業所でごみゼロエミッション(総排出量に占める最終処分量1%以下)達成	2011年度までに全事業所でのごみゼロエミッションの達成
	化学物質総排出量の削減を実施、VOC*3:55.4%減、PRTR法*4対象物質:41.1%減(2000年度比)	化学物質総排出量の削減(2010年度までに2000年度比40%削減)
環境リスクの低減	排水・廃棄物管理を主とした287項目の監査チェックリストを活用した全事業所への環境監査実施	環境監査による法規制の遵守徹底

\*1 REACH:化学物質においてEUの登録・管理を求めるもの  
 \*2 EuP指令:エネルギーを使用する機器にエコデザイン、CEマークを求めるもの  
 \*3 VOC:揮発性有機化合物  
 \*4 PRTR法:特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

## ● 外部からの評価

CSRへの取り組みが評価され、当社は「ダウジョーンズ・サステナビリティ・インデックス」と「モーニングスター社会的責任投資株価指数」という2つの代表的なSRI株価指数に組み入れられています。

